

豊島区
介護保険アンケート調査
報告書
< 概要 >

平成 17 年 3 月

豊島区

. 調査の概要

(1) 調査の目的

要介護者・要支援者のサービス利用状況の分析や今後のサービス利用意向等を把握するとともに、一般高齢者の生活・健康状態や介護予防を含む保健福祉サービスに対する需要等を把握し、介護保険事業計画及び高齢者保健福祉計画の改定に向けて必要となる基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査の概要

調査名	調査対象	回収数	調査時期	調査内容
サービス利用者調査	介護保険居宅サービスを利用している区民 1,893 人に発送 郵送配布 郵送回収	1,222 人 (回収率 64.6%)	平成 17 年 3 月	(1) 対象者の属性 (2) 食事について (3) 歯のお手入れについて (4) 健康状態について (5) 転倒予防について (6) 相談相手について (7) 担当のケアマネジャーについて (8) 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について (9) 介護保険サービスの利用状況と今後の利用意向について (10) 住み慣れた地域での新たなサービスについて (11) 介護予防に向けて (12) 介護保険制度について (13) 成年後見制度について (14) 介護者の状況について
サービス未利用者調査	介護保険サービスを利用していない区民 1,972 人に発送 郵送配布 郵送回収	1,165 人 (回収率 59.1%)	平成 17 年 3 月	(1) 対象者の属性 (2) 食事について (3) 歯のお手入れについて (4) 健康状態について (5) 転倒予防について (6) 相談相手について (7) 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について (8) 住み慣れた地域での新たなサービスについて (9) 介護予防に向けて (10) 介護保険制度について (11) 成年後見制度について (12) 介護者の状況について
高齢者一般調査	65 歳以上の区民 2,000 人に発送 郵送配布 郵送回収	1,330 人 (回収率 66.5%)	平成 17 年 3 月	(1) 対象者の属性 (2) 日常生活について (3) 食事について (4) 歯のお手入れについて (5) 健康状態や介護予防の意識について (6) 転倒予防について (7) 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について (8) 就労意向やいきがいについて (9) 外出について (10) 介護保険制度について

. 調査結果の要約

(1) サービス利用者調査

1 - 1 対象者の属性

性別は、「女性」(71.1%)、「男性」(28.8%)となっている。

年齢は、「80～84歳」が23.3%で最も多く、以下「85～89歳」(20.2%)、「75～79歳」(19.2%)、「90～94歳」(11.3%)の順で続いている。

保険料段階は、「所得段階2」が40.7%で最も多く、以下「所得段階3」(23.8%)、「所得段階5」(14.8%)、「所得段階4」(8.5%)の順で続いている。

介護度は、「要介護1」が35.4%で最も多く、以下「要介護2」(18.8%)、「要支援」(16.4%)、「要介護3」(14.2%)、「要介護4」(8.9%)、「要介護5」(6.1%)の順となっている。

障害高齢者自立度は、「J2」が24.3%で最も多く、以下「A1」(23.2%)、「A2」(23.1%)、「B1」(9.1%)、「B2」(7.9%)の順で続いている。介護度別にみると、要支援では「J1」「J2」が8割強の大多数である。要介護1～3では「A1」「A2」の割合が高くなっている。

認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立」が30.7%で最も多く、以下「a」(30.6%)、「b」(13.8%)、「a」(9.2%)、「a」(8.8%)の順で続いている。介護度別にみると、介護度が高くなるほど何らかの認知症がみられる割合が増加している。要介護2～4では中度(～)の認知症が多くなっている。

記入者は、「ご本人」が40.0%で最も多く、以下「ご家族等がご本人にかわって回答」(30.9%)、「ご本人が回答し、ご家族等が記入」(24.1%)となっている。

現在の居住場所は、「自宅で生活している」が90.6%で最も多く、以下「病院に入院中」(2.4%)、「老人保健施設に入所中」(1.6%)、「特別養護老人ホームに入所中」(0.8%)の順で続いている。

介護者の有無は、「いる」(66.0%)、「いない」(31.5%)となっている。

家族構成は、「同居世帯(子どもや親と同居)」が44.9%で最も多く、以下「一人暮らし」(25.7%)、「夫婦二人暮らし(ともに65歳以上)」(20.1%)、「その他世帯(兄弟姉妹など)」(3.0%)、「夫婦二人暮らし(どちらか一方が64歳以下)」(2.6%)の順となっている。

近所の相談相手の有無は、「いる」(66.4%)、「いない」(21.8%)となっている。

昼間の独居は、「ときどきある」(39.8%)、「いつもひとりである」(30.1%)、「ほとんどない」(22.9%)となっている。夜間の独居は、「ほとんどない」(51.3%)、「いつもひとりである」(27.2%)、「ときどきある」(10.5%)となっている。

住居形態は、「一戸建て(持ち家)」が64.4%で最も多く、以下「集合住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)」(15.8%)、「集合住宅(分譲マンション等)」(9.0%)、「一戸建て(借家)」(2.7%)、「その他」(3.8%)の順となっている。

居住地域で生活する意向は、「そう思う」(87.6%)、「そう思わない」(5.3%)となっている。住居形態別にみると、一戸建て、集合住宅とも住居を所有している人のほうが地域での生活を継続する意向が高くなっている。

1 - 2 食事について

1日の食事回数は、「3回以上」が75.0%で最も多く、以下「2回」(16.1%)、「まちまち」(5.1%)、「1回」(0.8%)、「とらないことが多い」(0.3%)の順となっている。

食事を楽しいと感じるかについては、「とても感じる」が39.4%で最も多く、以下「多少は感じる」(37.0%)、「あまり感じない」(13.4%)、「感じない」(5.0%)の順となっている。

家族構成別にみると、『一人暮らし』で楽しみを感じない割合が比較的高くなっている。

食事の状況について、介護予防の観点から懸念される項目は、『オ．買い物に行くのに不自由』(「はい」67.7%)、『カ．食事の用意に不自由を感じる』(「はい」64.9%)、『ウ．食事の時、むせる』『エ．一人で食事することが多い』(ともに「はい」が4割強)などとなっている。介護度別にみると、『イ．食事の時、よくかめる』人の割合は要介護3以降、大きく減少し、要介護5では2割台半ばとなっている。『ウ．食事の時、むせる』人の割合は要介護3以降に多く、5割台を占めている。家族構成別にみると、『カ．食事の用意に不自由を感じる』人は、『夫婦二人暮らし(どちらか一方が64歳以下)』『その他世帯(兄弟姉妹など)』で8割弱と多くなっている。

1 - 3 歯のお手入れについて

歯や口腔の状況について、介護予防の観点から懸念される項目は、『ウ．虫歯の治療をしている』(「はい」32.2%)、『イ．口や入れ歯の臭いが気になる』(「はい」29.9%)などとなっている。介護度別にみると、おおむね介護度が高くなるほど介護予防の観点から懸念される割合が多くなっている。

1 - 4 健康状態について

主観的健康観については、「いいえ(健康だと思わない)」(70.4%)、「はい(健康だと思う)」(23.8%)となっている。障害高齢者自立度別にみると、A1で「はい(健康だと思う)」が約3割と最も多くなっている。J1、J2で「はい(健康だと思う)」は2割台である。

要支援・要介護になった主な原因は、「脳血管疾患」が21.7%で最も多く、以下「高齢による衰弱」(15.5%)、「転倒・骨折」(12.4%)、「関節疾患(リウマチ等)」(9.8%)の順で続いている。「その他」の主な内容は、「足・膝・腰の障害」(43件)、「がん」(6件)、「腎臓病」(6件)、「うつ病」(5件)、「目の障害」(4件)、「頸椎の障害」(4件)などとなっている。性別にみると、「脳血管疾患」は男性(38.1%)が女性(14.9%)を大きく上回り、「転倒・骨折」「関節疾患(リウマチ等)」は女性のほうが多くなっている。

この1年間の入院経験は、「ない」(63.3%)、「ある」(32.9%)となっている。

医療機関や歯科への通院は、「はい(通院している)」(81.8%)、「いいえ(通院していない)」(14.8%)となっている。介護度別にみると、介護度が低いほどおおむね「はい」が多く、要支援・要介護1では9割前後となっている。通院回数/月は、「1回」(31.6%)、「2回」(28.3%)、「3回」(9.1%)、「5～9回」(8.6%)、「4回」(8.2%)、「10回以上」(5.6%)となっている。

在宅医療等にかかわる援助は、「医師による訪問診療を受けている」が 18.2%で最も多く、以下「看護師等による吸引や吸入、浣腸など医療処理を受けている」(4.2%)、「カテーテルや点滴、酸素カニューレ等の医療器具を装着している」(3.6%)の順で続いている。

医師から処方された薬を常時飲んでいるかどうかについては、「はい」(90.9%)、「いいえ」(4.3%)となっている。薬を決まった分量、決まった時間に自分で飲めるかどうかについては、「はい」(65.9%)、「いいえ」(27.5%)となっている。

トイレの失敗の有無は、「少しもれることがある」(37.0%)、「失敗することがある」(32.7%)、「全くない」(23.2%)となっている。性別にみると、女性のほうが「少しもれることがある」が多く、男性のほうが「全くない」がやや多くなっている。介護度別にみると、いずれの介護度でも「少しもれることがある」「失敗することがある」が多く、失敗が「全くない」は要支援でも3割台半ばとなっている。

1 - 5 転倒予防について

この1年間の転倒の有無は、「ある」(52.0%)、「ない」(42.7%)となっている。介護度別にみると、「ある」は要支援でも5割弱、要介護1～4では5割以上と多くなっている。転んだときのケガの有無は、「打撲・ねんざ・打ち身」が45.5%で最も多く、以下「ケガはしなかった」(33.5%)、「骨折して入院した(または入院している)」(8.9%)の順で続いている。介護度別にみると、介護度が低くなるほどおおむね「ケガはしなかった」が多く、要介護4・5では「骨折して入院した(または入院している)」が2割前後と比較的多くなっている。

転んだ場所は、「家の中(家の出入口も含む)」(73.4%)、「家の外」(29.0%)となっている。介護度別にみると、要支援・要介護1では「家の外」が4割前後と比較的多くなっている。転んだ原因は、「体がふらついた」が52.7%で最も多く、以下「つまずいた」(48.7%)、「滑った」(30.0%)、「段差があった」(17.3%)の順で続いている。介護度別にみると、「体がふらついた」は要介護4で8割弱と特に多くなっている。「つまずいた」は要支援・要介護1で5割台半ばと多い。「めまいや立ちくらみがした」は介護度が低くなるほど多くなっている。

転んでしまいそうで怖いと感じることは、「ある」(75.4%)、「ない」(14.9%)となっている。転倒の有無別にみると、転んでしまいそうで怖いと感じることが「ある」の割合は、転倒経験がある人では8割台半ばだが、転倒経験がない人では7割弱となっている。

1 - 6 相談相手について

相談相手は、「家族・親族」が73.4%で最も多く、以下「かかりつけの医師や看護師」(53.1%)、「担当の介護支援専門員(ケアマネジャー)」(48.0%)、「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」(33.2%)の順で続いている。家族構成別にみると、『一人暮らし』では「家族・親族」が5割強と比較的少なくなっている。『一人暮らし』では「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」が5割弱、「近所の人、友人や知人」が約2割と比較的多い。

1 - 7 担当のケアマネジャーについて

ケアマネジャーの訪問は、「月1回以上の訪問があり、サービスの実施状況などを話し合う」が57.5%で最も多く、以下「月1回以上の訪問があるが、簡単な会話を交わす程度である」(22.8%)、「訪問はほとんどない」(12.9%)、「わからない」(1.9%)の順となっている。

ケアマネジャーの対応についての満足度は、「満足している」が51.4%で最も多く、これに「まあ満足している」(30.8%)を合わせると8割強が『満足』と回答している。以下、「あまり満足していない」(4.9%)、「満足していない」(2.3%)、「わからない」(6.2%)の順となっている。ケアマネジャーの訪問頻度別にみると、「満足している」は『月1回以上の訪問があり、サービスの実施状況などを話し合う』では7割強だが、『月1回以上の訪問があるが、簡単な会話を交わす程度である』では3割弱、『訪問はほとんどない』では2割弱となっている。

1 - 8 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について

保健・福祉サービスの利用状況・利用意向で、「今後も利用する」は『オ・紙おむつ支給・おむつ購入費助成』で15.9%と最も多く、その他のサービスでは1割以下である。「今後は利用しない」はいずれのサービスでも1%前後と少ない。「今後も利用する」は『オ・紙おむつ支給・おむつ購入費助成』で34.6%と最も多く、『エ・火災安全システム』(28.7%)、『ウ・緊急通報システム』(28.2%)がこれに次いでいる。「今後は利用しない」は『イ・福祉電話の貸出し』で59.4%と最も多く、『ケ・認知症(痴ほう)高齢者徘徊探知システム』(48.1%)、『ア・配食サービス』(45.8%)がこれに次いでいる。

1 - 9 介護保険サービスの利用状況と今後の利用意向について

介護保険サービスを利用する場所は、「自宅」が90.2%で最も多く、以下「有料老人ホームや介護付きケアハウス」(1.6%)、「認知症(痴ほう)高齢者グループホーム」(0.5%)、「その他」(3.5%)となっている。

利用している居宅サービスは、「訪問介護(家事援助中心)」が55.8%で最も多く、以下「訪問介護(身体介護中心)」(30.4%)、「訪問入浴介護」(13.5%)、「訪問介護(通院等介助中心)」(11.4%)の順で続いている。性別にみると、「訪問介護(家事援助中心)」の利用は女性のほうが多く、「訪問介護(身体介護中心)」の利用は男性のほうが多くなっている。家族構成別にみると、『一人暮らし』で「訪問介護(家事援助中心)」が8割台半ばと特に多くなっている。介護度別にみると、介護度が低いほど「訪問介護(家事援助中心)」が多く、介護度が高くなるほど「訪問介護(身体介護中心)」「訪問入浴介護」「訪問看護」が多くなっている。

訪問介護(身体介護中心)の利用時間帯は、「日中(午前8時から午後6時まで)」が88.4%で最も多く、以下「日中以外の時間帯」(12.5%)、「わからない」(0.3%)となっている。性別にみると、「日中以外の時間帯」は女性のほうが多くなっている。家族構成別に

みると、「日中以外の時間帯」は夫婦二人暮らしの世帯で比較的多くなっている。介護度別にみると、「日中以外の時間帯」は要介護4・5で2割前後と多くなっている。

訪問介護（家事援助中心）の利用内容は、「掃除」が85.8%で最も多く、以下「食事の仕度」（42.4%）、「洗濯」（37.7%）、「その他」（36.3%）となっている。性別にみると、「食事の仕度」「洗濯」は男性の利用が多くなっている。家族構成別にみると、「食事の仕度」は『夫婦二人暮らし』と『同居世帯』の利用が多くなっている。介護度別にみると、「掃除」は要支援～要介護2で9割前後と利用が多く、「食事の仕度」「洗濯」は要介護2以上で利用が多くなっている。

利用している通所サービスは、「通所介護（デイサービス）」（27.4%）、「通所リハビリテーション」（5.6%）、「利用していない」（48.5%）となっている。介護度別にみると、「通所介護（デイサービス）」は要介護2～4で3～4割台と利用が多くなっている。

通所介護サービスに期待することは、「機能維持や向上を中心としたリハビリテーション」が52.7%で最も多く、以下「日常生活活動を中心としたレクリエーション」（28.8%）、「その他」（4.5%）となっている。介護度別にみると、「機能維持や向上を中心としたリハビリテーション」は要介護2・3で5割以上と多い。「日常生活活動を中心としたレクリエーション」は要介護4で4割弱と多くなっている。

通所介護サービスへの要望は、「もっと転倒予防、認知症予防など、介護予防メニューを受けたい」が32.6%で最も多く、以下「もっと自宅の近くの事業者を利用したい」（11.2%）、「訪問介護など他で利用している事業者と同じ事業者にお願いしたい」（2.9%）、「その他」（9.3%）となっている。介護度別にみると、「もっと転倒予防、認知症予防など、介護予防メニューを受けたい」は要介護1～要介護4で3割以上と多くなっている。

短期入所サービスの利用状況は、「利用していない」が63.8%で最も多い。利用しているサービスは「短期入所生活介護」（5.7%）、「短期入所療養介護」（3.1%）となっている。介護度別にみると、「短期入所生活介護」は介護度が高くなるほど多く、要介護3以上では1割以上となっている。

利用している介護保険サービスは、「福祉用具の貸与」が52.4%で最も多く、以下「福祉用具の購入」（26.7%）、「住宅改修」（22.4%）の順となっている。また、「いずれも利用していない」が26.8%となっている。介護度別にみると、「福祉用具の貸与」は介護度が高くなるほど利用が多く、要介護5では8割台半ばとなっている。「福祉用具の購入」「住宅改修」は要介護4までは介護度が高くなるにつれ利用が多くなっている。

在宅介護への介護保険サービスの貢献度は、「大変役立っている」が81.1%で最も多く、これに「多少は役立っている」（12.9%）を合わせると94.0%が『役立っている』と回答している。以下、「あまり役立っていない」（0.5%）、「役立っていない」（0.5%）、「わからない」（0.8%）の順となっている。

在宅サービスの利用意向について、「現在より利用回数等を増やしたい」は『ア．訪問介護（午前8時から午後6時までの利用）』で19.5%と最も多く、『カ．通所介護（デイサービス）』（10.9%）、『コ．福祉用具貸与』（10.2%）がこれに次いでいる。「新たに利用したい」は『ク．短期入所生活介護』で14.1%と最も多く、その他のサービスでは1割前後と

なっている。介護度別にみると、多くのサービスで要介護4までは「現在より利用回数等を増やしたい」「新たに利用したい」が増加しており、『ア・訪問介護（午前8時から午後6時までの利用）』『イ・訪問介護（早朝・夜間・深夜の利用）』『ク・短期入所生活介護』などでその傾向が顕著である。

1 - 10 住み慣れた地域での新たなサービスについて

小規模多機能型居宅介護の利用意向は、「ぜひ利用したい」(21.9%)、「利用を検討したい」(20.7%)、「利用の希望はない」(14.5%)、「わからない」(25.6%)となっている。地域別にみると、「ぜひ利用したい」は『千川』が42.3%で最も多く、以下、『南池袋』(40.5%)、『西巣鴨』(35.6%)、『巣鴨』(29.9%)、『高松』(27.9%)、『東池袋』(26.3%)の順で続いている。介護度別にみると、「ぜひ利用したい」「利用を検討したい」を合わせた利用意向は、要介護2～要介護4で高くなっている。通所系サービス利用状況別にみると、「ぜひ利用したい」「利用を検討したい」を合わせた利用意向は、『通所介護（デイサービス）』の利用者で最も高く6割強、『通所リハビリテーション』の利用者は5割台半ば、『利用していない』人では4割弱となっている。小規模多機能型居宅介護を「ぜひ利用したい」と回答した人の優先的利用の意向は、「はい」(84.3%)、「いいえ」(2.5%)、「わからない」(11.2%)となっている。

地域夜間訪問介護の利用意向は、「利用の希望はない」(26.9%)、「利用を検討したい」(16.0%)、「ぜひ利用したい」(9.6%)、「わからない」(24.9%)となっている。地域別にみると、「ぜひ利用したい」は『高田』が28.6%で最も多く、以下、『南池袋』(21.6%)、『東池袋』(15.8%)、『高松』(14.0%)、『巣鴨』(11.9%)、『西池袋』(11.4%)、『西巣鴨』(11.1%)、『南大塚』(10.8%)の順で続いている。介護度別にみると、「ぜひ利用したい」は要支援・要介護1・要介護3で1割程度と比較的多い。「利用を検討したい」は、要介護2～要介護4で2割前後と比較的多くなっている。地域夜間訪問介護を「ぜひ利用したい」と回答した人の優先的利用の意向は、「はい」(77.4%)、「いいえ」(3.8%)、「わからない」(17.0%)となっている。

認知症（痴ほう）高齢者専用デイサービスの必要性は、「必要だと思う」(40.9%)、「必要だと思わない」(5.6%)、「わからない」(21.3%)となっている。地域別にみると、「必要だと思う」は『千川』が53.8%で最も多く、以下、『高田』(53.6%)、『南池袋』(51.4%)、『西巣鴨』(51.1%)、『目白』(49.1%)の順で続いている。介護度別にみると、「必要だと思う」は要介護2以上で多くなっている。

1 - 11 介護予防に向けて

食事の買い物は、「していない」(38.7%)、「ときどきしている」(33.2%)、「いつもしている」(17.4%)となっている。性別にみると、「いつもしている」は女性のほうが多い。介護度別にみると、男女とも要支援のほうが「いつもしている」が多くなっている。家族構成別にみると、「いつもしている」は一人暮らしで2割強と最も多くなっている。

食事の準備がどの程度できるかは、「献立を自分で考えて、調理することができる」が

32.9%で最も多く、以下「調理された食事を温める程度ならできる」(31.9%)、「献立や材料が供給されれば、調理することができる」(13.4%)、「まったくできない」(8.7%)の順で続いている。性別にみると、男性では「調理された食事を温める程度ならできる」が約4割で最も多く、女性では「献立を自分で考えて、調理することができる」が4割弱で最も多くなっている。介護度別にみると、男女とも要支援のほうが「献立を自分で考えて、調理することができる」が多くなっている。家族構成別にみると、『一人暮らし』では「献立を自分で考えて、調理することができる」が4割強で最も多くなっている。

食事づくりの頻度は、「ほとんど毎日している」(39.0%)、「ときどきしている」(25.6%)、「ほとんどしていない」(25.4%)となっている。性別にみると、男性では「ほとんどしていない」が5割弱で最も多く、女性では「ほとんど毎日している」が4割強で最も多くなっている。介護度別にみると、男女とも要支援のほうが「ほとんど毎日している」が多くなっている。家族構成別にみると、「ほとんど毎日している」は『一人暮らし』で5割弱と最も多くなっている。買い物の状況別にみると、買い物をいつもしている人では食事づくりも「ほとんど毎日している」が8割弱だが、買い物をしていない人では食事づくりを「ほとんどしていない」が5割台半ばとなっている。

食事づくりを「ほとんどしていない」または「ときどきしている」と回答した人のふだんの食事は、「家族が調理する」が51.3%で最も多く、以下「調理済みのものを買う(外食を含む)」(44.1%)、「ヘルパーが調理する」(28.9%)、「配食サービスを利用する」(15.6%)の順で続いている。家族構成別にみると、『一人暮らし』以外では「家族が調理する」が7割以上で最も多い。『一人暮らし』では「調理済みのものを買う(外食を含む)」が63.8%で最も多く、以下、「ヘルパーが調理する」(45.7%)、「配食サービスを利用する」(28.7%)の順となっている。

日常生活の自立度等で、介護予防の観点から懸念される項目は、『シ・片足で立ったまま、靴下をはくことができる』(「いいえ」83.8%)、『カ・友人の家を訪ねることがある』(「いいえ」62.8%)、『ク・病人を見舞うことができる』(「いいえ」55.6%)、『セ・1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多い』(「はい」55.4%)などとなっている。性別・介護度別にみると、要介護1のほうが介護予防の観点から懸念される割合が高く、『ア・一人で外出できる』『イ・年金などの手続の書類が書ける』『コ・横断歩道を青信号の間に渡りることができる』『サ・貯金の出し入れなど、家計のやりくりができる』などでその差が顕著である。トイレの失敗の有無別にみると、失敗することがある人のほうが1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多くなっている。転倒に対する恐れの有無別にみると、転倒に対する恐れがある人のほうが1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多くなっている。外出能力別にみると、一人での外出が『できる』にもかかわらず、1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多い人が5割弱みられる。

認知症(痴ほう)予防に向けて取り組んでいるものは、「ある」(45.4%)、「ない」(29.0%)、「わからない」(17.2%)となっている。

参加したい介護予防教室は、「転倒を予防するための体操」が36.9%で最も多く、以下「筋力を向上させるためのトレーニング」(34.4%)、「尿もれを防ぐ体操」(26.0%)、「高齢

期にあったバランスのよい食事を学ぶ教室」(23.2%)、「認知症(痴ほう)を予防するための教室」(22.9%)の順で続いている。性別にみると、男性のほうが「特に参加したいものはない」が多くなっている。介護度別にみると、女性ではほとんどの項目で要支援の参加意向が高くなっているが、男性では「転倒を予防するための体操」「筋力を向上させるためのトレーニング」で要介護1のほうが参加意向が高くなっている。

1 - 12 介護保険制度について

介護保険料の負担感は、「多少負担である」が34.8%で最も多く、これに「非常に負担である」(13.6%)を合わせると48.4%が『負担である』と感じている。以下、「あまり負担ではない」(18.1%)、「どちらともいえない」(17.4%)、「まったく負担ではない」(3.3%)、「わからない」(5.6%)の順となっている。保険料段階別にみると、ほとんどの所得段階では「多少負担である」が3割台で最も多いが、所得段階1では「わからない」が3割弱で最多となっている。また、「非常に負担である」と「多少負担である」を合わせた負担を感じている層は、所得段階1では3割弱だが、所得段階2になると5割強と急激に増加している。

介護サービスと保険料のあり方については、「標準的な介護サービスでよい、保険料も標準的な金額がよい」が52.5%で最も多く、以下「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」(15.9%)、「介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい」(10.0%)、「わからない」(13.1%)の順となっている。介護保険料の負担感別にみると、負担を感じていない層ほど「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」が多くなっている。

介護保険制度に対する評価は、「多少は評価している」が40.5%で最も多く、これに「大いに評価している」(32.6%)を合わせると73.1%が評価している。以下、「あまり評価していない」(7.0%)、「まったく評価していない」(0.9%)、「わからない」(12.0%)の順となっている。

希望する介護場所は、「自宅で生活したい」が80.8%で最も多く、以下「特別養護老人ホームに入りたい」(6.9%)、「有料老人ホームや介護に配慮された住宅に移って生活したい」(1.9%)の順で続いている。介護度別にみると、重度(要介護4・5)では「特別養護老人ホームに入りたい」が5%前後みられる。

自宅での生活を続けていく上で必要なことは、「緊急時に受け入れ可能な施設」が61.7%で最も多く、以下「家族等介護者に対する支援」(46.6%)、「夜間や緊急時の訪問介護サービス」(43.1%)、「介護保険サービス以外の保健福祉サービス」(17.2%)の順で続いている。特別養護老人ホームへの入所申し込みの有無は、「申し込んでいない」(44人)、「申し込んでいる」(28人)となっている。

特別養護老人ホームへ申し込みをしている主な理由は、「介護をする家族の心身の負担が大きい」が17人で最も多く、以下「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」(15人)、「整った設備と専門職員による介護が必要となっている」(13人)、「介護をする家族や親族がいない」(13人)の順で続いている。

今後、区が力を入れていくべきものは、「在宅での生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」が 58.0%で最も多く、以下「介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実」(31.9%)、「介護が必要にならないような健康づくりと介護予防の推進」(29.6%)の順で続いている。

1 - 13 成年後見制度について

成年後見制度を知っているかについては、「いいえ」(63.6%)、「はい」(22.5%)となっている。相談する場所を知っているかについては、「いいえ」(71.5%)、「はい」(8.5%)となっている。制度を利用しているかについては、「いいえ」(75.2%)、「はい」(3.3%)となっている。

1 - 14 介護者の状況について

主な介護者は、「夫または妻」が 34.3%で最も多く、以下「娘」(25.9%)、「息子の妻」(12.2%)、「息子」(10.7%)、「ヘルパーなどサービス事業者の職員」(6.7%)の順で続いている。

主な介護者の性別は、「女性」(67.3%)、「男性」(23.7%)となっている。

主な介護者の年齢は、「50～59歳」が 27.3%で最も多く、以下「75歳以上」(21.8%)、「65～74歳」(21.3%)、「60～64歳」(15.3%)の順で続いており、65歳以上が4割強を占めている。本人の年齢別にみると、本人が75～84歳では介護者が75歳以上が3割台であり、老老介護の現状がうかがえる。

主な介護者の仕事の有無は、「仕事はしていない」(42.1%)、「仕事をしている」(35.7%)、「介護のために仕事を辞め、現在仕事をしていない」(16.0%)の順となっている。介護者の年齢別にみると、年齢が低くなるほどおおむね「仕事をしている」が多く、「介護のために仕事を辞め、現在仕事をしていない」は40～74歳で2割前後となっている。

主な介護者の健康状態は、「おおむね健康」(43.5%)、「健康に不安あり」(27.9%)、「病気や疾病あり」(23.1%)の順となっている。介護者の年齢別にみると、「病気や疾病あり」は40歳未満と65歳以上で比較的多くなっている。

介護協力者の有無は、「いる」(57.8%)、「いない」(34.0%)となっている。介護者の年齢別にみると、65歳以上では「いる」は5割強と比較的少なくなっている。

介護している時間帯は、「夜間」が 65.9%で最も多く、以下「日中」(65.6%)、「早朝」(52.6%)、「深夜」(39.4%)の順となっている。介護度別にみると、おおむね介護度が高くなるほどいずれの時間帯の割合も高くなっている。

介護の負担感は、「多少負担」が 52.2%で最も多く、これに「非常に負担」(25.4%)を合わせると 77.6%が負担と感じている。以下、「あまり負担でない」(10.4%)、「負担ではない」(2.8%)の順となっている。介護度別にみると、介護度が高くなるほど「非常に負担」が多くなっている。介護協力者の有無別にみると、「非常に負担」は介護協力者がいる人では2割強、いない人では3割強となっている。

本人につらくあたった経験は、「ときどきある」(47.5%)、「ない」(34.1%)、「よくある」

(12.9%)となっている。介護度別にみると、「よくある」は要介護3で2割強と特に多くなっている。介護の負担感別にみると、介護の負担を感じている層ほど本人につらくあつた経験が多く、介護が『非常に負担』では「よくある」「ときどきある」合わせて8割強となっている。

介護者の不安や悩みの相談先は、「家族・親族」が66.5%で最も多く、以下「担当の介護支援専門員(ケアマネジャー)」(48.4%)、「かかりつけの医師や看護師」(39.1%)、「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」(25.9%)の順で続いている。介護の負担感別にみると、負担を感じている層では「担当の介護支援専門員(ケアマネジャー)」「かかりつけの医師や看護師」などが負担を感じていない層より多くなっている。

介護を行う上での悩みは、「ストレスがたまっている」が47.8%で最も多く、以下「共倒れしてしまうのではないかと思うことがある」(27.6%)、「自分の健康が保てない」(27.1%)、「自分の他に介護をしてくれる人がほしい」(25.1%)、「睡眠時間や休息する時間がとれない」(21.3%)の順で続いている。介護の負担感別にみると、負担を感じている層ほど介護を行う上での悩みが多く、介護を『非常に負担』と感じている人で特に多くなっている。

(2) サービス未利用者調査

2-1 対象者の属性

性別は、「女性」(67.3%)、「男性」(32.6%)となっている。

年齢は、「80～84歳」が25.5%で最も多く、以下「75～79歳」(20.9%)、「85～89歳」(20.1%)、「70～74歳」(11.2%)の順で続いている。

保険料段階は、「所得段階2」が41.6%で最も多く、以下「所得段階3」(24.4%)、「所得段階5」(15.5%)、「所得段階4」(10.1%)の順で続いている。

介護度は、「要介護1」が34.0%で最も多く、以下「要支援」(32.3%)、「要介護2」(11.4%)、「要介護3」(8.0%)、「要介護4」(7.9%)、「要介護5」(6.4%)の順となっている。

障害高齢者自立度は、「J2」が34.9%で最も多く、以下「A1」(20.7%)、「A2」(13.7%)、「J1」(9.4%)、「B1」(7.0%)、「B2」(6.1%)の順で続いている。介護度別にみると、要支援では「J1」「J2」が9割弱の大多数である。要介護1～2では「A1」「A2」の割合が高くなっている。

認知症高齢者の日常生活自立度は、「自立」が36.4%で最も多く、以下「a」(31.2%)、「b」(10.6%)、「a」(8.8%)、「a」(6.5%)の順で続いている。介護度別にみると、介護度が高くなるほど何らかの認知症の症状がみられる割合が増加している。要介護1～3では～の認知症が多くなっている。

記入者は、「ご本人」(50.3%)、「ご家族の方」(43.3%)、「その他の方」(2.6%)となっている。

現在の居住場所は、「自宅で生活している」が75.9%で最も多く、以下「病院に入院中」

(14.9%)「介護療養型医療施設に入院中」(2.3%)「老人保健施設に入所中」(1.4%)の順で続いている。

介護保険サービスの利用状況は、「利用していない」(78.6%)「利用している」(21.4%)となっている。

介護者の有無は、「いない」(48.8%)「いる」(46.5%)となっている。

要介護認定を受けた理由は、「必要な時に、すぐにサービスを利用できるようにするため」が60.1%で最も多く、以下「家族や知人、主治医など周囲の人に勧められたため」(35.7%)、「訪問介護や住宅改修費の支給等の介護保険サービスを利用するため」(20.6%)の順で続いている。介護度別にみると、要介護3以上では「紙おむつの受給などの福祉サービスを利用するため」「介護保険施設への入所を希望しているため」が比較的多くなっている。

介護保険サービスの利用経験は、「1度もない」(63.2%)「ある」(29.1%)となっている。介護度別にみると、介護保険サービスの利用経験が「ある」は要介護2～4で4割前後と多くなっている。

利用しない理由は、「できるだけ自分で身のまわりのことをしたい」が63.3%で最も多く、以下「それほど身体の状態が悪くない」(28.9%)「他人が家に入ることに抵抗がある」(27.6%)「家族に介護をしてもらいたい」(21.3%)の順で続いている。

現在、利用していない理由は、「身体の状態が良くなった」「住宅改修費等の受給のみでよかった」がともに22.7%で最も多く、以下「現在、入院している」(21.5%)「家族の介護で十分だった」(20.2%)「他人が家に入ることに抵抗があった」(15.3%)の順で続いている。

家族構成は、「同居世帯(子どもや親と同居)」が38.7%で最も多く、以下「夫婦二人暮らし(ともに65歳以上)」(26.2%)「一人暮らし」(22.8%)「その他世帯(兄弟姉妹など)」(3.2%)「夫婦二人暮らし(どちらか一方が64歳以下)」(2.3%)の順となっている。年齢別にみると、65歳以降、高齢になるにつれ「一人暮らし」「夫婦二人暮らし」が減少し、「同居世帯(子どもや親と同居)」が増加している。一人暮らし世帯の男女比は、女性が84.2%と多数を占めている。一人暮らし世帯の介護度は、「要支援」が52.6%で最も多く、以下「要介護1」(31.6%)「要介護2」(5.3%)「要介護4」(4.7%)「要介護3」(4.2%)「要介護5」(1.6%)の順となっている。

近くに相談できる人の有無は、「いる」(69.1%)「いない」(19.4%)となっている。

昼間の独居状況は、「ときどきある」(39.4%)「いつもひとりである」(27.5%)「ほとんどない」(22.1%)となっている。夜間の独居状況は、「ほとんどない」(51.8%)「いつもひとりである」(23.0%)「ときどきある」(10.8%)となっている。

住居形態は、「一戸建て(持ち家)」が68.0%で最も多く、以下「集合住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)」(11.8%)「集合住宅(分譲マンション等)」(9.7%)の順で続いている。

地域での生活を継続する意向は、「そう思う」(85.9%)「そう思わない」(5.3%)となっている。住居形態別にみると、一戸建て、集合住宅とも住居を所有している人のほうが地域

での生活を継続する意向が高くなっている。

2 - 2 食事について

1日の食事回数は、「3回以上」が76.3%で最も多く、以下「2回」(11.2%)、「まちまち」(4.8%)、「1回」(1.2%)、「とらないことが多い」(0.4%)の順となっている。

食事を楽しいと感じるかについては、「多少は感じる」が37.4%で最も多く、以下「とても感じる」(37.0%)、「あまり感じない」(13.8%)、「感じない」(3.5%)の順となっている。家族構成別にみると、「あまり感じない」「感じない」の合計は、『一人暮らし』『同居世帯』で2割前後と比較的多くなっている。

食事の状況について、介護予防の観点から懸念される項目は、『オ．買い物に行くのに不自由』(「はい」51.0%)、『カ．食事の用意に不自由を感じる』(「はい」47.2%)、『エ．一人で食事することが多い』(「はい」39.1%)などとなっている。介護度別にみると、『イ．食事の時、よくかめる』人の割合は要介護度が進むにつれ減少し、要介護5では1割以下となっている。『ウ．食事の時、むせる』人の割合は要介護4で特に多く、4割強を占めている。家族構成別にみると、『カ．食事の用意に不自由を感じる』人は、『夫婦二人暮らし(どちらか一方が64歳以下)』で7割強と多くなっている。

2 - 3 歯のお手入れについて

歯や口腔の状況について、介護予防の観点から懸念される項目は、『ウ．虫歯の治療をしている』(「はい」31.5%)、『イ．口や入れ歯の臭いが気になる』(「はい」25.7%)などとなっている。介護度別にみると、おおむね介護度が高くなるほど介護予防の観点から懸念される割合が多くなっている。

2 - 4 健康状態について

主観的健康観については、「いいえ(健康だと思わない)」(61.7%)、「はい(健康だと思う)」(29.4%)となっている。

要支援・要介護になった主な原因は、「脳血管疾患」が18.5%で最も多く、以下「高齢による衰弱」(12.7%)、「転倒・骨折」(10.9%)、「関節疾患(リウマチ等)」(7.8%)の順で続いている。「その他」の主な内容は、「足・膝・腰の障害」(34件)、「腎臓病」(8件)、「がん」(6件)、「目の障害」(5件)などとなっている。性別にみると、「脳血管疾患」は男性(26.1%)が女性(15.1%)を大きく上回り、「転倒・骨折」「関節疾患(リウマチ等)」は女性のほうが多くなっている。

この1年間の入院経験は、「ない」(54.4%)、「ある」(38.0%)となっている。

医療機関や歯科への通院は、「はい(通院している)」(75.8%)、「いいえ(通院していない)」(14.4%)となっている。介護度別にみると、介護度が低いほど「はい(通院している)」が多く、要支援・要介護1では8割以上となっている。通院回数/月は、「2回」が30.4%で最も多く、以下「1回」(24.6%)、「3回」(9.0%)、「4回」(8.2%)、「10回以上」(8.2%)、「5～9回」(7.3%)の順となっている。

在宅医療等にかかわる援助は、「受けていない」が73.6%の大多数である。受けている援助の中では、「医師による訪問診療を受けている」が2.0%で最も多く、以下「カテーテルや点滴、酸素カニューレ等の医療器具を装着している」(1.9%)、「歯科医師による訪問診療を受けている」(0.4%)の順で続いている。

医師から処方された薬を常時飲んでいるかどうかについては、「はい」(86.3%)、「いいえ」(5.8%)となっている。薬を決まった分量、決まった時間に自分で飲めるかどうかについては、「はい」(70.2%)、「いいえ」(17.2%)となっている。

トイレの失敗の有無は、「少しもれることがある」(39.9%)、「全くない」(30.3%)、「失敗することがある」(20.1%)となっている。性別にみると、女性のほうが「少しもれることがある」が多く、男性のほうが「失敗することがある」が多くなっている。介護度別にみると、いずれの介護度でも「少しもれることがある」「失敗することがある」が多く、失敗が「全くない」は要支援でも4割強となっている。

2 - 5 転倒予防について

この1年間の転倒の有無は、「ある」(46.9%)、「ない」(45.3%)となっている。介護度別にみると、「ある」は要支援でも4割台半ば、要介護1～3では5割以上と多くなっている。

転んだときのケガの有無は、「打撲・ねんざ・打ち身」が44.4%で最も多く、以下「ケガはしなかった」(35.1%)、「骨折したが入院はせずに通院した(または通院している)」(9.0%)の順で続いている。介護度別にみると、いずれの介護度でも「ケガはしなかった」は4割未満で、なんらかのケガをした人が多くなっている。

転んだ場所は、「家の中(家の出入口も含む)」(64.6%)、「家の外」(37.2%)となっている。介護度別にみると、要支援・要介護1では「家の外」が4割前後と比較的多くなっている。転んだ原因は、「つまずいた」が57.1%で最も多く、以下「体がふらついた」(47.2%)、「段差があった」(24.2%)、「滑った」(23.8%)の順で続いている。

転んでしまいそうで怖いと感じることは、「ある」(64.5%)、「ない」(22.4%)となっている。転倒の有無別にみると、転んでしまいそうで怖いと感じることが「ある」の割合は、転倒経験がある人では8割弱だが、転倒経験がない人では約6割となっている。

2 - 6 相談相手について

相談相手は、「家族・親族」が75.6%で最も多く、以下「かかりつけの医師や看護師」(47.2%)、「近所の人、友人や知人」(14.4%)、「区の保健福祉センターや在宅介護支援センター、保健所など」(10.6%)の順で続いている。家族構成別にみると、『一人暮らし』ではほかの家族構成に比べ「家族・親族」が約6割と少なく、「近所の人、友人や知人」が約3割と多くなっている。

2 - 7 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について

保健・福祉サービスの利用状況・利用意向で、「現在利用しており、今後も利用する」は

いずれのサービスでも1割以下で、最も多い『オ・紙おむつ支給・おむつ購入費助成』で5.8%となっている。「現在は利用しているが、今後は利用しない」はいずれのサービスでも1%以下と少ない。「現在は利用していないが、今後は利用する」は『オ・紙おむつ支給・おむつ購入費助成』で36.3%と最も多く、『キ・寝具の洗濯・乾燥サービス』(28.8%)、『ウ・緊急通報システム』(27.9%)がこれに次いでいる。「現在利用しておらず、今後も利用しない」は『イ・福祉電話の貸出し』で50.7%と最も多く、『ア・配食サービス』(38.2%)、『ケ・認知症(痴ほう)高齢者徘徊探知システム』(35.8%)がこれに次いでいる。

2 - 8 住み慣れた地域での新たなサービスについて

小規模多機能型居宅介護の利用意向は、「利用を検討したい」(25.2%)、「ぜひ利用したい」(17.5%)、「利用の希望はない」(14.4%)、「わからない」(28.5%)となっている。地域別にみると、「ぜひ利用したい」は『目白』が28.6%で最も多く、以下『上池袋』(25.0%)、『池袋』(24.2%)、『高田』(23.3%)、『南池袋』(22.2%)、『要町』(22.2%)、『池袋本町』(20.4%)、『長崎』(20.0%)の順で続いている。介護度別にみると、「ぜひ利用したい」「利用を検討したい」を合わせた利用意向は、要支援・要介護1で高くなっている。小規模多機能型居宅介護を「ぜひ利用したい」と回答した人の優先的利用の意向は、「はい」(87.7%)、「いいえ」(2.1%)、「わからない」(6.8%)となっている。

地域夜間訪問介護の利用意向は、「利用を検討したい」(20.7%)、「利用の希望はない」(18.3%)、「ぜひ利用したい」(9.3%)、「わからない」(28.5%)となっている。地域別にみると、「ぜひ利用したい」は『南池袋』が25.9%で最も多く、以下『池袋本町』(18.4%)、『上池袋』(13.6%)、『池袋』(12.9%)、『駒込』(12.0%)、『目白』(11.9%)、『南大塚』(11.8%)、『要町』(11.1%)、『高田』(10.0%)の順で続いている。介護度別にみると、「ぜひ利用したい」は要介護4～5で1割以上と比較的多い。「利用を検討したい」は、要支援～要介護2で2割強と比較的多くなっている。地域夜間訪問介護を「ぜひ利用したい」と回答した人の優先的利用の意向は、「はい」(87.0%)、「いいえ」(1.3%)、「わからない」(10.4%)となっている。

認知症(痴ほう)高齢者専用デイサービスの必要性は、「必要だと思う」(41.2%)、「必要だと思わない」(6.5%)、「わからない」(23.6%)となっている。地域別にみると、「必要だと思う」は『長崎』が56.7%で最も多く、以下『千早』(53.7%)、『千川』(50.0%)、『上池袋』(47.7%)、『池袋』(46.8%)、『目白』(45.2%)、『東池袋』(44.4%)、『高松』(43.8%)、『南長崎』(43.1%)、『巣鴨』(41.7%)、『要町』(41.7%)の順で続いている。

2 - 9 介護予防に向けて

食事の買い物は、「いつもしている」(31.0%)、「ときどきしている」(27.4%)、「していない」(27.2%)となっている。性別にみると、「いつもしている」は女性のほうが多い。介護度別にみると、男性では要支援のほうが「ときどきしている」が多く、女性では要支援のほうが「いつもしている」が多くなっている。家族構成別にみると、「いつもしてい

る」は一人暮らしで5割弱と最も多くなっている。

食事の準備がどの程度できるかは、「献立を自分で考えて、調理することができる」が41.1%で最も多く、以下「調理された食事を温める程度ならできる」(23.1%)、「献立や材料が供給されれば、調理することができる」(11.1%)の順で続いている。性別にみると、男性では「調理された食事を温める程度ならできる」が3割台半ばで最も多く、女性では「献立を自分で考えて、調理することができる」が5割強で最も多くなっている。介護度別にみると、男女とも要支援のほうが「献立を自分で考えて、調理することができる」が多くなっている。家族構成別にみると、『一人暮らし』では「献立を自分で考えて、調理することができる」が6割弱で最も多くなっている。

食事づくりの頻度は、「ほとんど毎日している」(42.4%)、「ほとんどしていない」(22.7%)、「ときどきしている」(19.3%)となっている。性別にみると、男性では「ほとんどしていない」が4割強で最も多く、女性では「ほとんど毎日している」が5割弱で最も多くなっている。介護度別にみると、男女とも要支援のほうが「ほとんど毎日している」が多くなっている。家族構成別にみると、「ほとんど毎日している」は『一人暮らし』で6割弱と最も多くなっている。買い物の状況別にみると、買い物をいつもしている人では食事づくりも「ほとんど毎日している」が8割強だが、買い物をしていない人では食事づくりを「ほとんどしていない」が6割台半ばとなっている。

食事づくりを「ほとんどしていない」または「ときどきしている」と回答した人のふだんの食事は、「家族が調理する」が68.0%で最も多く、以下「調理済みのものを買う(外食を含む)」(31.6%)、「配食サービスを利用する」(5.3%)の順で続いている。家族構成別にみると、『一人暮らし』以外では「家族が調理する」が最も多い。『一人暮らし』では「調理済みのものを買う(外食を含む)」が66.7%で最も多く、次いで「家族が調理する」「配食サービスを利用する」が15.6%となっている。

日常生活の自立度等について、介護予防の観点から懸念される項目は、『シ・片足で立ったまま、靴下をはくことができる』(「いいえ」72.4%)、『カ・友人の家を訪ねることがある』(「いいえ」53.3%)、『セ・1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多い』(「はい」47.7%)、『ク・病人を見舞うことができる』(「いいえ」40.4%)などとなっている。性別・介護度別にみると、要介護1のほうが介護予防の観点から懸念される割合が高く、『ア・一人で外出できる』『イ・年金などの手続きの書類が書ける』『ク・病人を見舞うことができる』『コ・横断歩道を青信号の間に渡りきることができる』『サ・貯金の出し入れなど、家計のやりくりができる』などでその差が顕著である。トイレの失敗の有無別にみると、失敗することが多い人のほうが1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多くなっている。転倒に対する恐れの有無別にみると、転倒に対する恐れがある人のほうが1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多くなっている。外出能力別にみると、一人での外出が『できる』にもかかわらず、1日中家の外には出ず、家の中で過ごすことが多い人が4割強みられる。

認知症(痴ほう)予防に向けて取り組んでいるものは、「ある」(36.3%)、「ない」(35.5%)、「わからない」(14.9%)となっている。

参加したい介護予防教室は、「転倒を予防するための体操」が 33.0%で最も多く、以下「筋力を向上させるためのトレーニング」(32.5%)、「尿もれを防ぐ体操」(23.1%)、「認知症(痴ほう)を予防するための教室」(22.3%)、「高齢期にあったバランスのよい食事を学ぶ教室」(22.1%)の順で続いている。性別・介護度別にみると、男性では「筋力を向上させるためのトレーニング」「高齢期にあったバランスのよい食事を学ぶ教室」など多くの項目で要支援のほうが参加意向が高くなっている。女性では「筋力を向上させるためのトレーニング」「尿もれを防ぐ体操」は要介護1のほうが参加意向が高く、「認知症(痴ほう)を予防するための教室」「高齢期にあったバランスのよい食事を学ぶ教室」は要支援のほうが参加意向が高くなっている。

2 - 10 介護保険制度について

介護保険料の負担感は、「多少負担である」が 33.1%で最も多く、これに「非常に負担である」(18.3%)を合わせると 51.4%が負担と回答している。以下、「どちらともいえない」(18.8%)、「あまり負担ではない」(10.3%)の順で続いている。保険料段階別にみると、ほとんどの所得段階では「多少負担である」が3割台で最も多いが、未賦課若しくは2号では「わからない」が3割弱で最多となっている。また、「非常に負担である」と「多少負担である」を合わせた負担を感じている層は、所得段階1では3割台半ばだが、所得段階2になると5割台半ばと急激に増加している。

介護サービスと保険料のあり方については、「標準的な介護サービスでよい、保険料も標準的な金額がよい」が 41.9%で最も多く、以下「介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい」(16.9%)、「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」(11.1%)の順で続いている。介護保険料の負担感別にみると、負担を感じていない層ほど「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」が多くなっている。

介護保険制度に対する評価は、「多少は評価している」が 38.1%で最も多く、これに「大いに評価している」(16.9%)を合わせると 55.0%が評価している。以下、「あまり評価していない」(14.4%)、「まったく評価していない」(3.4%)、「わからない」(18.4%)の順となっている。

希望する介護場所は、「自宅で生活したい」が 75.7%で最も多く、以下「特別養護老人ホームに入りたい」(7.9%)、「有料老人ホームや介護に配慮された住宅に移って生活したい」(2.0%)の順で続いている。介護度別にみると、重度(要介護4・5)では「特別養護老人ホームに入りたい」が2～3割台と比較的多くなっている。家族構成別にみると、『一人暮らし』では「自宅で生活したい」が7割弱とやや少なくなっている。

今後、利用する予定の介護保険サービスは、「訪問介護(午前8時から午後6時までの利用)」が 24.6%で最も多く、以下「福祉用具貸与」(22.2%)、「訪問入浴介護」(13.0%)、「訪問看護」(12.7%)、「通所介護(デイサービス)」(12.7%)の順で続いている。

自宅での生活を続けていく上で必要なことは、「緊急時に受け入れ可能な施設」が 49.2%で最も多く、以下「家族等介護者に対する支援」(40.6%)、「夜間や緊急時の訪問介護サービス」(28.3%)、「段差解消や手すりの設置などの住宅改修」(18.4%)の順で続いている。

特別養護老人ホームへの入所申し込みの有無は、「申し込んでいない」(35人)、「申し込んでいる」(25人)となっている。

特別養護老人ホームへ申し込みをしている主な理由は、「整った設備と専門職員による介護が必要となっている」「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」がともに11人で最も多く、以下「介護をする家族の心身の負担が大きい」(9人)、「介護をする家族や親族がいない」(6人)の順で続いている。

今後、区が力を入れていくべきものは、「在宅での生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」が45.8%で最も多く、以下「介護が必要にならないような健康づくりと介護予防の推進」(38.8%)、「介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実」(27.0%)、「所得の低い方に配慮した対策」(23.6%)の順で続いている。

2 - 11 成年後見制度について

成年後見制度を知っているかについては、「いいえ」(63.0%)、「はい」(15.9%)となっている。相談する場所を知っているかについては、「いいえ」(67.1%)、「はい」(7.7%)となっている。制度を利用しているかについては、「いいえ」(71.0%)、「はい」(1.8%)となっている。

2 - 12 介護者の状況について

主な介護者は、「夫または妻」が41.1%で最も多く、以下「娘」(25.6%)、「息子の妻」(10.9%)、「息子」(6.7%)、「その他の親族」(4.4%)の順で続いている。

主な介護者の性別は、「女性」(66.5%)、「男性」(23.9%)となっている。

主な介護者の年齢は、「50～59歳」が27.1%で最も多く、以下「75歳以上」(25.7%)、「65～74歳」(19.5%)、「60～64歳」(14.9%)と続いており、65歳以上が4割台半ばを占めている。本人の年齢別にみると、本人が75～79歳では介護者が75歳以上が4割台半ばと特に多く、本人が80～89歳でも75歳以上の介護者が2割台を占めている。

主な介護者の仕事の有無は、「仕事はしていない」(46.1%)、「仕事をしている」(34.1%)、「介護のために仕事を辞め、現在仕事をしていない」(10.5%)となっている。介護者の年齢別にみると、年齢が低くなるほど「仕事をしている」が多くなっている。

主な介護者の健康状態は、「おおむね健康」(40.2%)、「健康に不安あり」(29.4%)、「病気や疾病あり」(21.0%)となっている。介護者の年齢別にみると、「病気や疾病あり」は65～74歳で2割強、75歳以上で4割弱と多くなっている。主な介護者が「不健康な人」(「健康に不安あり」+「病気や疾病あり」)のうち「老老介護」(本人・介護者がともに65歳以上)の占める割合は57.2%である。「老老介護」かつ「不健康な人」のサービスを利用しない理由は、「できるだけ自分で身のまわりのことをしたい」が37人で最も多く、以下「家族に介護をしてもらいたい」(25人)、「他人が家に入ることに抵抗がある」(22人)、「それほど身体の状態が悪くない」(16人)、「家族の介護で十分である」(13人)、「利用の手続きがわからない」(7人)の順で続いている。

介護協力者の有無は、「いる」(52.2%)、「いない」(39.7%)となっている。

介護している時間帯は、「日中」が 56.9%で最も多く、以下「夜間」(46.1%)、「早朝」(35.0%)、「深夜」(25.4%)の順となっている。介護度別にみると、「早朝」「深夜」は要介護1までは3割以下だが、要介護2以上では大きく増加している。

介護の負担感は、「多少負担」が 44.0%で最も多く、これに「非常に負担」(16.6%)を合わせると 60.6%が負担と回答している。以下、「あまり負担でない」(19.8%)、「負担ではない」(5.5%)の順となっている。介護度別にみると、介護度が高くなるほど「非常に負担」が多くなっている。介護協力者の有無別にみると、介護協力者がいる人では「あまり負担でない」「負担ではない」がいない人より多くなっている。

本人につらくあたった経験は、「ときどきある」(46.1%)、「ない」(35.9%)、「よくある」(9.0%)となっている。介護の負担感別にみると、介護の負担を感じている層ほど本人につらくあたった経験が多く、介護が『非常に負担』では「よくある」「ときどきある」合わせて8割弱となっている。

介護者の不安や悩みの相談先は、「家族・親族」が 70.6%で最も多く、以下「かかりつけの医師や看護師」(38.8%)、「近所の人、友人や知人」(20.4%)、「区の保健福祉センターや在宅介護支援センター、保健所など」(13.4%)、「担当の介護支援専門員(ケアマネジャー)」(12.8%)の順で続いている。介護の負担感別にみると、負担を感じている層では「家族・親族」がやや少なく、「かかりつけの医師や看護師」「区の保健福祉センターや在宅介護支援センター、保健所など」などが負担を感じていない層より多くなっている。

介護を行う上での悩みは、「ストレスがたまっている」が 40.2%で最も多く、以下「介護保険サービスを利用させたいが、本人が使いたがらない」(29.2%)、「共倒れしてしまうのではないかと思うことがある」(23.6%)、「自分の健康が保てない」(21.3%)、「自分の他に介護をしてくれる人がほしい」(18.4%)の順で続いている。介護の負担感別にみると、負担を感じている層ほど介護を行う上での悩みが多く、介護を『非常に負担』と感じている人で特に多くなっている。

(3) 高齢者一般調査

3 - 1 対象者の属性

性別は、「女性」(60.5%)、「男性」(39.1%)となっている。

年齢は、「70～74歳」が 41.3%で最も多く、以下「75～79歳」(30.3%)、「80～84歳」(18.9%)、「85～89歳」(7.4%)の順で続いている。

保険料段階は、「所得段階2」が 35.3%で最も多く、以下「所得段階3」(24.4%)、「所得段階5」(22.8%)、「所得段階4」(13.6%)、「所得段階1」(3.5%)の順となっている。

記入者は、「ご本人」(87.7%)、「ご家族の方」(6.5%)、「その他の方」(0.3%)となっている。

現在の居住場所は、「自宅で生活している」が 95.3%の大多数である。

要介護認定の有無は、「受けていない」(94.9%)、「非該当(自立)と判定」(0.3%)、「要支援、要介護1～5と認定」(0.2%)となっている。

家族構成は、「同居世帯（子どもや親と同居）」が 37.7%で最も多く、以下「夫婦二人暮らし（ともに 65 歳以上）」(34.6%)、「一人暮らし」(20.9%) の順で続いている。年齢別にみると、「一人暮らし」は 75～84 歳で 24.4%とほかの年齢層に比べ多くなっている。85 歳以上では「同居世帯（子どもや親と同居）」が 6 割強を占めている。一人暮らし世帯の男女比は、女性が 81.1%と多数を占めている。保険料段階別にみると、所得段階 1・2 では「一人暮らし」が特に多くなっている。

近くに相談できる人の有無は、「いる」(72.0%)、「いない」(18.8%) となっている。

昼間の独居状況は、「ときどきある」(40.7%)、「ほとんどない」(31.3%)、「いつもひとりである」(24.3%) となっている。夜間の独居状況は、「ほとんどない」(58.7%)、「いつもひとりである」(21.7%)、「ときどきある」(11.9%) となっている。

住居形態は、「一戸建て（持ち家）」が 70.1%で最も多く、以下「集合住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」(13.7%)、「集合住宅（分譲マンション等）」(9.5%) の順で続いている。

住み替えの意向は、「考えていない」が 84.8%で最も多く、以下「高齢者向け賃貸住宅」(5.1%)、「家族・親族との同居」(2.8%)、「有料老人ホーム」(1.6%) の順で続いている。家族構成別にみると、一人暮らしでは「高齢者向け賃貸住宅」が 1 割強と比較的多くなっている。住居形態別にみると『一戸建て（借家）』では「家族・親族との同居」「高齢者向け賃貸住宅」が 2 割弱、『集合住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）』では「高齢者向け賃貸住宅」が 2 割台半ばみられる。

3 - 2 日常生活について

日常生活の自立度等について、介護予防の観点から懸念される項目は、『シ・片足で立ったまま、靴下をはくことができる』(「いいえ」38.1%)、『カ・友人の家を訪ねることがある』(「いいえ」35.8%)、『ケ・若い人に自分から話しかけることがある』(「いいえ」20.1%) などとなっている。性別にみると、『イ・年金などの手続の書類が書ける』『シ・片足で立ったまま、靴下をはくことができる』は男性のほうが多く、『オ・健康についての記事や番組に関心がある』『カ・友人の家を訪ねることがある』『ケ・若い人に自分から話しかけることがある』は女性のほうが多くなっている。年齢別にみると、ほとんどの項目で 65～74 歳の前期高齢者のほうが多くなっている。

成年後見制度を知っているかについては、「いいえ」(65.5%)、「はい」(28.0%) となっている。相談する場所を知っているかについては、「いいえ」(76.5%)、「はい」(12.3%) となっている。制度を利用しているかについては、「いいえ」(86.2%)、「はい」(1.6%) となっている。

3 - 3 食事について

1日の食事回数は、「3回以上」が 81.6%で最も多く、以下「2回」(12.2%)、「日によりまちまち」(4.0%)、「1回」(0.8%) の順となっている。家族構成別にみると、「3回以上」は一人暮らし、その他世帯（兄弟姉妹など）で比較的少なくなっている。

日用品の買い物は、「いつもしている」(66.5%)、「ときどきしている」(24.7%)、「していない・できない」(7.5%)となっている。

食事づくりの頻度は、「ほとんど毎日している」(56.2%)、「ほとんどしていない」(23.9%)、「ときどきしている」(17.6%)となっている。家族構成別にみると、「ほとんど毎日している」は一人暮らしで8割台半ばを占めている。

食事づくりを「ほとんどしていない」または「ときどきしている」と回答した人のふだんの食事は、「家族が調理する」が85.9%で最も多く、以下「調理済みのものを買う(外食を含む)」(16.2%)、「配食サービスを利用する」(1.1%)の順で続いている。食事づくりの頻度別にみると、『ほとんどしていない』人では「家族が調理する」が9割台半ばの大多数であり、『ときどきしている』人では「調理済みのものを買う(外食を含む)」が3割弱みられる。家族構成別にみると、一人暮らしでは6割が「調理済みのものを買う(外食を含む)」となっている。

食事を楽しいと感じるかについては、「とても感じる」が62.8%で最も多く、以下「多少は感じる」(29.7%)、「あまり感じない」(5.8%)、「感じない」(0.7%)の順となっている。食事の状況について、介護予防の観点から懸念される項目は、『エ．一人で食事することが多い』(「はい」34.2%)、『ウ．食事の時、むせる』(「はい」19.8%)などとなっている。性別にみると、『エ．一人で食事することが多い』は女性のほうが多く、『カ．食事の用意に不自由を感じる』は男性のほうが多くなっている。年齢別にみると、『エ．一人で食事することが多い』は女性では75歳以上のほうが多く、『カ．食事の用意に不自由を感じる』は男女とも75歳以上のほうが多くなっている。

3 - 4 歯のお手入れについて

歯や口腔の状況について、介護予防の観点から懸念される項目は、『ウ．虫歯の治療をしている』(「はい」47.6%)、『イ．口や入れ歯の臭いが気になる』(「はい」25.9%)などとなっている。性別にみると、『ウ．虫歯の治療をしている』『エ．かかりつけの歯科医師がいる』は女性のほうが多く、『イ．口や入れ歯の臭いが気になる』は男性のほうが多くなっている。年齢別にみると、すべての項目で65~74歳のほうが多くなっている。

3 - 5 健康状態や介護予防の意識について

主観的健康観については、「はい(健康だと思う)」(65.1%)、「いいえ(健康だと思わない)」(32.0%)となっている。年齢別にみると、男女とも65~74歳のほうが「はい(健康だと思う)」が多くなっている。

この1年間の入院経験は、「いいえ」(85.5%)、「はい」(12.6%)となっている。性別にみると、男性のほうが入院経験がある人が多い。年齢別にみると、男女とも75歳以上のほうが入院経験がある人が多くなっている。

医療機関や歯科への通院は、「はい(通院している)」(77.8%)、「いいえ(通院していない)」(17.7%)となっている。年齢別にみると、男女とも75歳以上のほうが通院している人が多くなっている。通院回数/月は、「1回」が29.1%で最も多く、以下「2回」

(28.6%)、「3回」(7.8%)、「4回」(5.3%)、「5～9回」(4.6%)、「10回以上」(3.3%)の順となっている。

通っている医療機関の数は、「1か所」(43.7%)、「2か所」(36.1%)、「3か所以上」(15.7%)となっている。

病気の種類は、「高血圧症」が47.5%で最も多く、以下「目の病気」(30.6%)、「歯の病気」(24.3%)、「腰痛」(18.9%)、「心臓の病気」(16.1%)、「胃腸の病気」(15.4%)、「糖尿病」(13.1%)、「骨粗しょう症」(11.4%)の順で続いている。性別にみると、「目の病気」「腰痛」「骨粗しょう症」は女性のほうが多く、「心臓の病気」「糖尿病」は男性のほうが多くなっている。年齢別にみると、「目の病気」「骨粗しょう症」は男女とも75歳以上のほうが多く、「歯の病気」は男女とも65～74歳のほうが多くなっている。

同じ病名で2か所以上の病院への通院は、「いいえ」(89.4%)、「はい」(7.0%)となっている。

目がよく見えるかどうかについては、「はい」(80.6%)、「いいえ」(16.9%)となっている。耳がよく聞こえるかどうかについては、「はい」(77.8%)、「いいえ」(18.7%)となっている。年齢別にみると、『目はよく見える』は男性では75歳以上のほうが多く、女性では65～74歳のほうが多い。『耳はよく聞こえる』は男女とも65～74歳のほうが多くなっている。

医師から処方された薬を常時飲んでいるかどうかについては、「はい」(78.8%)、「いいえ」(16.0%)となっている。薬を決まった分量、決まった時間に自分で飲むかどうかについては、「はい」(89.7%)、「いいえ」(2.9%)となっている。

トイレの失敗の有無は、「全くない」(69.3%)、「少しもれることがある」(25.6%)、「失敗することがある」(3.7%)となっている。性別にみると、女性のほうが「少しもれることがある」が多く、男性のほうが「全くない」が多くなっている。

ふだんの心がけや取り組みで介護予防ができると思うかについては、「思う」(47.7%)、「わからない」(39.2%)、「思わない」(10.5%)となっている。

健康維持や介護予防のために取り組んでいることは、「歯磨きなど歯の手入れをきちんと行う」が77.1%で最も多く、以下「バランスのよい食事をする」(73.9%)、「定期的に健康診断を受ける」(70.6%)、「規則正しい生活をする」(69.2%)の順で続いている。性別にみると、「手先を動かしたり頭を使ったりする」「趣味や生きがいをもつ」「人と会って、なるべく一人で過ごさないようにする」は女性のほうが多く、「仕事をする」は男性のほうが多い。年齢別にみると、「歯磨きなど歯の手入れをきちんと行う」「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」「趣味や生きがいをもつ」などは65～74歳のほうが多くなっている。主観的健康観別にみると、「歯磨きなど歯の手入れをきちんと行う」「バランスのよい食事をする」などほとんどの項目で自分が『健康だと思う』人のほうが多くなっている。介護予防への意識別にみると、介護予防ができる『思う』層のほうが多くの項目で取り組んでいる割合が高く、「よく歩いたり運動するなどして足腰を鍛える」「手先を動かしたり頭を使ったりする」「趣味や生きがいをもつ」「人と会って、なるべく一人で過ごさないようにする」などでその差が顕著である。

参加したい介護予防教室は、「筋力を向上させるためのトレーニング」が 32.6%で最も多く、以下「転倒を予防するための体操」(27.4%)、「高齢期にあったバランスのよい食事を学ぶ教室」(23.7%)、「認知症(痴ほう)を予防するための教室」(21.3%)の順で続いている。性別にみると、「転倒を予防するための体操」「高齢期にあったバランスのよい食事を学ぶ教室」などは女性のほうが多い。年齢別にみると、「筋力を向上させるためのトレーニング」「認知症(痴ほう)を予防するための教室」は男女とも 65~74 歳のほうが多く、「転倒を予防するための体操」「尿もれを防ぐ体操」は男女とも 75 歳以上のほうが多くなっている。

3 - 6 転倒予防について

この1年間の転倒の有無は、「ない」(72.0%)、「ある」(25.8%)となっている。性別にみると、女性のほうが転倒の経験が多い。年齢別にみると、男女とも 75 歳以上のほうが転倒の経験が多くなっている。

転んだときのケガの有無は、「ケガはしなかった」が 44.5%で最も多く、以下「打撲・ねんざ・打ち身」(40.5%)、「骨折したが入院はせずに通院した(または通院している)」(8.6%)の順で続いている。

転んだ場所は、「家の外」(50.0%)、「家の中(家の出入口も含む)」(36.2%)となっている。転んだ原因は、「つまずいた」が 58.5%で最も多く、以下「段差があった」(33.1%)、「体がふらついた」(26.3%)、「滑った」(19.5%)の順で続いている。

転んでしまいそうで怖いと感じることは、「ない」(59.0%)、「ある」(33.1%)となっている。転倒の有無別にみると、転んでしまいそうで怖いと感じることが「ある」の割合は、転倒経験がある人では約5割だが、転倒経験がない人では2割台半ばとなっている。

3 - 7 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について

健康づくりや介護予防事業の利用状況・利用意向で、「現在利用しており、今後も利用する」は『イ・健康診査』で5割強と突出して多く、その他の事業では1割未満である。「現在は利用していないが、今後は利用する」は『ア・健康教室・健康相談』で約3割と最も多く、その他の事業では2割前後となっている。「現在利用しておらず、今後も利用しない」は『イ・健康診査』を除き3~4割台となっている。

介護保険以外の福祉サービスの利用状況・利用意向で、「現在利用しており、今後も利用する」「現在は利用しているが、今後は利用しない」はいずれの事業でも2%以下とごくわずかである。「現在は利用していないが、今後は利用する」は『ウ・緊急通報システム』『エ・火災安全システム』『オ・紙おむつ支給・おむつ購入費助成』で3割強と比較的多い。「現在利用しておらず、今後も利用しない」は『イ・福祉電話の貸出し』で54.3%と最も多く、以下『ア・配食サービス』(44.4%)、『カ・出張理容サービス』(43.3%)、『ケ・認知症(痴ほう)高齢者徘徊探知システム』(41.7%)の順で続いている。

3 - 8 就労意向やいきがいについて

現在、仕事をしているかどうかは、「いいえ」(72.8%)、「はい」(24.3%)となっている。性別にみると、男性のほうが就労している人が多い。年齢別にみると、男女とも65~74歳のほうが就労している人が多くなっている。

今後働く意向は、「いいえ」(49.6%)、「はい」(29.2%)、「どちらともいえない」(9.6%)となっている。性別にみると、男性のほうが就労意向が高い。年齢別にみると、男女とも65~74歳のほうが就労意向が高くなっている。就労状況別にみると、現在『仕事をしている』人の8割強に今後も就労意向がみられる。

働きたい主な理由は、「生きがいになるから」が30.4%で最も多く、以下「生活費が必要だから」(26.0%)、「健康によいから」(23.0%)の順で続いている。

趣味やけいこ事を行っているかについては、「はい」(51.1%)、「いいえ」(42.9%)となっている。年齢別にみると、男女とも65~74歳のほうが趣味やけいこ事を行っている人が多くなっている。

今後したいことは、「旅行」が54.3%で最も多く、以下「映画や観劇などの鑑賞」(34.3%)、「趣味などのサークル活動」(26.9%)、「教養講座や講演会への参加」(19.6%)、「仕事・働くこと」(19.2%)の順で続いている。性別にみると、「映画や観劇などの鑑賞」「趣味などのサークル活動」「教養講座や講演会への参加」などは女性のほうが多く、「仕事・働くこと」「スポーツ活動」は男性のほうが多くなっている。年齢別にみると、「旅行」「映画や観劇などの鑑賞」などほとんどの項目で65~74歳のほうが多くなっている。

希望するボランティア活動の種類は、「自分の特技を生かした活動」が45.3%で最も多く、以下「自然や環境を守る活動」(39.1%)、「伝統文化やお祭りなどを守り育てる活動」(23.4%)、「地域の人々の健康や安全を守る活動」(21.1%)の順で続いている。

3 - 9 外出について

家の中で過ごすことが多いかどうかについては、「いいえ」(67.4%)、「はい」(28.9%)となっている。トイレの失敗の有無別にみると、トイレの失敗経験がある人ほど家の中で過ごすことが多くなっている。転倒に対する恐れの有無別にみると、転倒に対する恐れがある人ほど家の中で過ごすことが多くなっている。

外出頻度は、「週3回以上」が78.1%で最も多く、以下「週2回くらい」(8.1%)、「週1回くらい」(3.8%)、「ほとんど外出しない」(2.8%)の順となっている。家の中で過ごす頻度別にみると、『家の中で過ごすことが多い』人のうち外出頻度が週1回以下の割合は約2割となっている。

外出を控えている理由は、「ひざや足腰が痛いから」が37.1%で最も多く、以下「出かける場所や用事がないから」(26.9%)、「出かけるのがおっくうだから」(24.7%)、「体力的につらいから」(20.4%)の順で続いている。

3 - 10 介護保険制度について

介護保険制度の周知度で、「知っている」は『ア．各区市町村が介護保険事業を運営』『イ．40歳以上の方が被保険者』『エ．サービス利用には要介護認定が必要』で7割前後と多い。

「知らない」は『オ・サービス利用にはケアプラン作成が必要』『カ・サービス利用には事業者や施設と利用契約を結ぶ』で4割以上と多くなっている。

介護保険料の負担感は、「多少負担である」が35.4%で最も多く、これに「非常に負担である」(21.1%)を合わせると56.5%が負担と感じている。以下、「どちらともいえない」(16.3%)、「あまり負担ではない」(11.3%)、「わからない」(7.4%)、「まったく負担ではない」(2.5%)となっている。保険料段階別にみると、ほとんどの所得段階では「多少負担である」が最も多いが、所得段階1では「わからない」が約4割で最多となっている。

介護サービスと保険料のあり方については、「標準的な介護サービスでよい、保険料も標準的な金額がよい」が44.3%で最も多く、以下「介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい」(17.8%)、「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」(10.7%)の順が続いている。保険料段階別にみると、保険料段階に関わらず、標準的なサービスを望む人の割合が多い。介護保険料の負担感別にみると、『非常に負担である』層では「介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい」が4割強で最も多いが、『まったく負担ではない』層では「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」が5割と対照的な結果となっている。

介護保険制度全体の評価は、「多少は評価している」が40.0%で最も多く、これに「大いに評価している」(15.9%)を合わせると、55.9%が評価している。以下、「あまり評価していない」(12.9%)、「まったく評価していない」(4.5%)、「わからない」(21.2%)の順となっている。

希望する介護場所は、「自宅で生活したい」が63.2%で最も多く、以下「有料老人ホームや介護に配慮された住宅に移って生活したい」(9.1%)、「特別養護老人ホームに入りたい」(7.3%)の順が続いている。家族構成別にみると、『一人暮らし』では「有料老人ホームや介護に配慮された住宅に移って生活したい」が2割弱となっている。

介護保険サービスの利用意向は、「様子を見ながら利用したい」が48.1%で最も多く、以下「積極的に利用したい」(22.6%)、「できれば利用したくない」(20.9%)、「利用しない」(1.8%)の順となっている。

認知症(痴ほう)高齢者グループホームの周知状況は、「知らない・わからない」(59.8%)、「知っているが、認知症(痴ほう)の症状が出ても利用したくない」(16.5%)、「知っており、認知症(痴ほう)の症状が出た場合に利用したい」(16.0%)となっている。

介護保険制度の改定に対する関心は、「多少関心がある」が34.3%で最も多く、これに「大変関心がある」(33.3%)を合わせると67.6%が関心があると回答している。以下、「あまり関心がない」(8.8%)、「関心がない」(2.8%)、「わからない」(15.4%)の順となっている。年齢別にみると、男女とも65~74歳のほうが関心がある人が多くなっている。介護保険制度に対する評価別にみると、介護保険制度を評価している人のほうが関心度が高く、『大いに評価している』層では「大変関心がある」が6割強となっている。

今後、区が力を入れていくべきものは、「在宅での生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」が62.0%で最も多く、以下「ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への支援」(31.7%)、「健康づくりと介護予防の推進、地域保健医療体制の充実」(29.5%)、「福祉や

介護サービス利用者の権利・利益の保護」(25.1%)、「安心してきて、住みやすい住まいの確保」(23.4%)の順で続いている。

(4) 経年比較

4 - 1 サービス利用者調査

在宅医療等にかかわる援助は、「医師による訪問診療を受けている」が前回より7.8ポイント減少し、「受けていない」が微増している。

相談相手で前回調査に比べ増加しているものは、「担当の介護支援専門員(ケアマネジャー)」(9.0ポイント増)、「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」(4.9ポイント増)などである。「区の保健福祉センターや在宅介護支援センター、保健所など」は前回調査に比べマイナス11.8ポイントと大きく減少している。

介護保険料の負担感は、前回調査に比べ、「多少負担である」が3ポイント増加し、「非常に負担である」を合わせても負担と感じている人が微増している。

介護サービスと保険料のあり方については、前回調査に比べ、「標準的な介護サービスでよい、保険料も標準的な金額がよい」が7.2ポイント増加している。

介護保険制度に対する評価は、前回調査に比べ、「大いに評価している」が8.4ポイント増加しており、「多少は評価している」と合わせても評価している割合が増えている。

今後、区が力を入れていくべきもので前回調査に比べ増加しているものは、「在宅での生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」(4.4ポイント増)、「介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実」(2.5ポイント増)などである。前回調査に比べ減少しているものは、「所得の低い方に配慮した対策」(2.1ポイント減)、「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」(3.2ポイント減)などとなっている。

主な介護者は、前回調査に比べ、「息子の妻」が4.5ポイント減少し、「その他の親族」が2.2ポイント増加している。

主な介護者の性別は、前回調査に比べ、「女性」の割合が6.2ポイント減少している。

主な介護者の年齢は、前回調査に比べ、「75歳以上」が4.5ポイント増加している。

介護者の不安や悩みの相談先で前回調査に比べ増加しているものは、「担当の介護支援専門員(ケアマネジャー)」(9.4ポイント増)、「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」(8.5ポイント増)などである。前回調査に比べ減少しているものは、「家族・親族」(3.9ポイント減)、「かかりつけの医師や看護師」(5.5ポイント減)などとなっている。

4 - 2 サービス未利用者調査

在宅医療等にかかわる援助は、前回調査に比べ、「受けていない」が6.4ポイント増加しており、受けている援助の中では、「医師による訪問診療を受けている」が4.4ポイント減少している。

相談相手で前回調査に比べ増加しているものは、「近所の人、友人や知人」(5.4ポイント

増)などである。「区の保健福祉センターや在宅介護支援センター、保健所など」は 12.2 ポイント減と大きく減少している。

介護保険料の負担感は前回調査に比べ、「どちらともいえない」「わからない」が微増している。

介護サービスと保険料のあり方については、前回調査に比べ、「標準的な介護サービスでよい、保険料も標準的な金額がよい」が 5.8 ポイント増加し、「介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい」も微増している。

介護保険制度に対する評価は、前回調査に比べ、「多少は評価している」が 11.3 ポイント増、「大いに評価している」が 6.7 ポイント増となっており、前回より介護保険制度に対する評価が高くなっている。

今後、区が力を入れていくべきもので前回調査に比べ増加しているものは、「介護が必要にならないような健康づくりと介護予防の推進」(8.6 ポイント増)などである。前回調査に比べ減少しているものは、「所得の低い方に配慮した対策」(7.6 ポイント減)「特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実」(7.2 ポイント減)などとなっている。

主な介護者は、前回調査に比べ、「息子」が 5.8 ポイント、「息子の妻」が 3 ポイント減少している。

主な介護者の性別は、前回調査に比べ、男性が 2.1 ポイント増加し、女性が 8.3 ポイント減少している。

主な介護者の年齢は、前回調査に比べ、「75 歳以上」が 5.9 ポイント増加している。

介護者の不安や悩みの相談先は、前回調査に比べ、「相談する相手はいない」が 3.5 ポイント増加している。「区の保健福祉センターや在宅介護支援センター、保健所など」は 10.4 ポイント減と大きく減少している。

4 - 3 高齢者一般調査

介護保険制度の周知度については、前回調査で無回答が多かったため、今回「知っている」「知らない」ともに増加しており、単純な比較はできないが、『イ．40 歳以上の方が被保険者』『キ．サービス費用の 1 割負担で利用できる』では「知っている」が 10 ポイント以上増加しており、周知度が高くなっていることがうかがえる。『ウ．保険料は所得状況等に応じて 5 段階』では逆に、「知らない」の増加率が 7 ポイントで「知っている」の増加率 3.1 ポイントを上回っている。

介護保険料の負担感は、前回調査に比べ、「非常に負担である」が 4.6 ポイント増加し、「あまり負担ではない」が 4.5 ポイント減少しており、介護保険料の支払いを負担と感じる割合が高くなっている。

介護サービスと保険料のあり方については、前回調査からほとんど変化はない。

介護保険制度に対する評価は、前回調査に比べ、「大いに評価している」が 4.2 ポイント、「多少は評価している」が 7 ポイント増加しており、介護保険制度を評価する割合が高くなっている。

今後、区が力を入れていくべきもので前回調査に比べ増加しているものは、『在宅での生

活が続けられるような福祉、介護サービスの充実』(7.4 ポイント増)、『安心して、住みやすい住まいの確保』(3.6 ポイント増)などである。前回調査に比べ減少しているものは、『福祉や介護サービス利用者の権利・利益の保護』(4.7 ポイント減)、『特別養護老人ホームなどの施設サービスの充実』(5.7 ポイント減)などとなっている。

(5) 調査間比較

5 - 1 対象者の属性

性別をみると、「男性」の割合は高齢者一般で最も高く4割弱、利用者、未利用者では3割前後となっている。

保険料段階は、高齢者一般では「所得段階1」が3割台半ばで最も多いが、利用者、未利用者では「所得段階2」が4割強で最も多くなっている。

介護度は、利用者では「要介護2」以上が5割弱、未利用者では「要介護1」以下が6割台半ばとなっている。

障害高齢者自立度の「A1」～「C2」の割合は、利用者で約7割、未利用者で5割台半ばとなっている。

認知症高齢者の日常生活自立度の「自立」の割合は、利用者では6割強、未利用者では7割弱となっている。

記入者をみると、「ご家族等がご本人にかわって回答」は、利用者では約3割だが未利用者ではごくわずかである。

現在の居住場所は、利用者では「自宅で生活している」が約9割、未利用者では「自宅で生活している」が7割台半ば、「病院に入院中」が1割台半ばとなっている。

介護者の有無は、利用者では介護者が「いる」が6割台半ばだが、未利用者では「いない」が5割弱となっている。

家族構成は、利用者では「夫婦二人暮らし(ともに65歳以上)」がほかの調査に比べ少なく、「同居世帯(子どもや親と同居)」「一人暮らし」が多くなっている。高齢者一般では「夫婦二人暮らし(ともに65歳以上)」が3調査の中で最も多く3割台半ばとなっている。近所の相談相手の有無は、3調査の中では利用者で「いない」が最も多く、2割強となっている。

独居の状況は、昼間・夜間ともに「ほとんどない」は高齢者一般で最も多く、「いつもひとりである」は利用者で最も多くなっている。

住居形態の「一戸建て(持ち家)」は、高齢者一般で最も多く約7割となっている。

地域での生活を継続する意向について、「そう思う」は利用者でやや多くなっている。

5 - 2 食事について

1日の食事回数が「3回以上」は高齢者一般で最も多く8割強、利用者、未利用者では7割台半ばとなっている。

食事の楽しみの有無をみると、高齢者一般では、「とても感じる」が6割強と最も多いが、

利用者、未利用者では「とても感じる」と「多少は感じる」がそれぞれ4割弱でほぼ並んでいる。

食事の状況について、介護予防の観点から懸念される割合は、利用者で高く、高齢者一般で低くなっており、『オ．買い物に行くのに不自由』（「はい」が利用者 67.7%、高齢者一般 15.3%）『カ．食事の用意に不自由を感じる』（「はい」が利用者 64.9%、高齢者一般 16.6%）『ウ．食事の時、むせる』（「はい」が利用者 41.6%、高齢者一般 19.8%）などで顕著である。

5 - 3 歯のお手入れについて

歯や口腔の状況をみると、高齢者一般では、『ア．毎日歯みがきをする』『ウ．虫歯の治療をしている』『エ．かかりつけの歯科医師がいる』の「はい」の割合が3調査の中で最も高くなっている。

5 - 4 健康状態について

主観的健康観をみると、利用者、未利用者では「いいえ（健康だと思わない）」が6～7割だが、高齢者一般では「はい（健康だと思う）」が6割台半ばとなっている。

要支援・要介護になった主な原因は、多くの項目で利用者のほうが割合が高いが、「心臓病」は未利用者のほうがやや多くなっている。

この1年間の入院経験が「ある」は利用者で3割強、未利用者で4割弱と比較的多く、高齢者一般で1割強となっている。

医療機関や歯科への通院状況をみると、「はい（通院している）」は利用者で8割強とやや多くなっている。通院回数/月が3回以上の割合は、利用者、未利用者で3割強と多く、高齢者一般では2割強となっている。

在宅医療等にかかわる援助は、多くの項目で利用者のほうが多く、「医師による訪問診療を受けている」では利用者の18.2%に対し、未利用者では2.0%となっている。

薬の管理等について、医師から処方された薬を常時飲んでいる割合は、利用者で約9割と最も多く、次いで未利用者（8割台半ば）、高齢者一般（8割弱）の順となっている。薬を決まった分量、決まった時間に自分で飲める割合は高齢者一般で約9割と最も多く、次いで未利用者（約7割）、利用者（6割台半ば）の順となっている。

トイレの失敗の有無をみると、利用者、未利用者では「少しもれることがある」が4割弱で最も多いが、高齢者一般では「全くない」が7割弱となっている。

5 - 5 転倒予防について

転倒の有無をみると、「ある」は利用者で5割強、未利用者で4割台半ばと多く、高齢者一般では2割台半ばとなっている。

転んだときのケガの有無をみると、利用者、未利用者では「打撲・ねんざ・打ち身」が4割台半ばで最も多いが、高齢者一般では「ケガはしなかった」が4割台半ばで最も多くなっている。

転んだ場所は、利用者、未利用者では「家の中（家の出入口も含む）」が多く、高齢者一般では「家の外」が多くなっている。

転んだ原因は、利用者、未利用者では「体がふらついた」「つまずいた」が5割前後～6割弱と多いが、高齢者一般では「つまずいた」が6割弱で最も多く、「体がふらついた」は2割台半ばとなっている。

転倒に対する恐れの有無をみると、「ある」は利用者で7割台半ば、未利用者で6割台半ばと多く、高齢者一般では6割弱が「ない」となっている。

5 - 6 相談相手について

相談相手については、「担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）」（利用者 48.0%、未利用者 9.4%）、「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」（利用者 33.2%、未利用者 2.8%）などで大きな違いがみられる。

5 - 7 保健福祉サービスの利用状況と今後の利用意向について

保健・福祉サービスの今後の利用意向をみると、『ウ．緊急通報システム』『エ．火災安全システム』『オ．紙おむつ支給・おむつ購入費助成』はいずれの調査でも「今後は利用する」が2割台半ば～3割台半ばと比較的多い。『ウ．緊急通報システム』『エ．火災安全システム』については3調査の中で高齢者一般の利用意向が最も高くなっている。

5 - 8 介護保険サービスの利用状況と今後の利用意向について

今後利用する介護保険サービスをみると、「訪問介護（午前8時から午後6時までの利用）」「福祉用具貸与」については未利用者の利用意向が高く、「訪問リハビリテーション」「短期入所生活介護」「短期入所療養介護」については利用者の利用意向が高くなっている。

5 - 9 住み慣れた地域での新たなサービスについて

小規模多機能型居宅介護を「ぜひ利用したい」は利用者のほうがやや多い。優先的利用の意向は、未利用者のほうがやや多くなっている。

地域夜間訪問介護の「利用を検討したい」は未利用者のほうがやや多く、「利用の希望はない」は利用者のほうがやや多くなっている。優先的利用の意向は、未利用者のほうが10ポイント近く多くなっている。

認知症（痴ほう）高齢者専用デイサービスの必要性については、調査間で大きな違いはみられない。

5 - 10 介護予防に向けて

食事の買い物は、利用者では「していない」が4割弱で最も多く、未利用者では「いつもしている」「ときどきしている」「していない」が3割前後、高齢者一般では「いつもしている」が6割台半ばで最も多くなっている。

食事の準備は、利用者では「献立を自分で考えて、調理することができる」「調理された食事を温める程度ならできる」が3割強で並んで多く、未利用者では「献立を自分で考えて、調理することができる」が4割強で最も多くなっている。

食事づくりの頻度は、いずれの調査でも「ほとんど毎日している」が多く、高齢者一般で5割台半ばと最も多くなっている。利用者と未利用者を比較すると、利用者のほうが「ほとんどしていない」「ときどきしている」が多くなっている。

ふだんの食事は、高齢者一般では「家族が調理する」が8割台半ばと大多数だが、利用者では「家族が調理する」の5割強に加え「調理済みのものを買う（外食を含む）」が4割台半ば、「ヘルパーが調理する」が3割弱と多様である。未利用者では「家族が調理する」が7割弱、「調理済みのものを買う（外食を含む）」が3割強となっている。

日常生活の自立度等については、すべての項目で高齢者一般の日常生活自立度が高くなっている。利用者と未利用者を比較すると、介護予防の観点から懸念される割合は利用者のほうが高く、『ア．一人で外出できる』『ク．病人を見舞うことができる』『コ．横断歩道を青信号の間に渡りきることができる』『ス．水で濡れたタオルなどをきつくしぼることができる』などでその差が顕著である。

介護予防等の取り組みは、利用者では「ある」が4割台半ばで最も多いが、未利用者では「ある」と「ない」が3割台半ばでほぼ並んでいる。

介護予防教室等への参加意向は、利用者、未利用者では「転倒を予防するための体操」「筋力を向上させるためのトレーニング」の順で多いが、高齢者一般では「筋力を向上させるためのトレーニング」が最も多くなっている。利用者と未利用者を比較すると、ほとんどの項目で利用者の参加意向がやや高くなっている。また、高齢者一般では「特に参加したいものはない」が3割台半ばと3調査の中で最も多くなっている。

5 - 11 介護保険制度について

介護保険料の負担感について、「非常に負担である」と「多少負担である」を合わせた『負担である』と感じている割合は高齢者一般で5割台半ばと最も多く、次いで未利用者、利用者の順となっている。

介護サービスと保険料のあり方について、「標準的な介護サービスでよい、保険料も標準的な金額がよい」は利用者で5割強と最も多く、未利用者、高齢者一般では4割強である。利用者では「保険料が多少高くなっても、区独自で介護サービスを充実」が1割台半ば、未利用者、高齢者一般では「介護サービスを多少抑えても、保険料は安いほうがよい」が2割弱と一定割合みられる。

介護保険制度に対する評価をみると、「大いに評価している」と「多少は評価している」を合わせた『評価している』の割合は、利用者で7割強と最も多く、未利用者、高齢者一般では5割台半ばである。

希望する介護場所をみると、「自宅で生活したい」は利用者で約8割と最も多く、未利用者では7割台半ば、高齢者一般では6割強となっている。

自宅での生活を続けていく上で必要なことは、多くの項目で利用者のほうが割合が高く、

「緊急時に受け入れ可能な施設」「夜間や緊急時の訪問介護サービス」などでその差が顕著である。

特別養護老人ホームへの入所申し込みは、利用者のほうが「申し込んでいない」がやや多くなっている。

特別養護老人ホームへ申し込みをしている主な理由は、多くの項目で未利用者のほうが割合が高く、「現在の住まいの機能上、在宅での介護がむずかしい」「整った設備と専門職員による介護が必要となっている」などでその差が顕著である。

今後、区が力を入れていくべきもので利用者のほうが多い項目は、「在宅での生活が続けられるような福祉、介護サービスの充実」「介護サービス利用者や家族を支援する情報提供の充実」「介護支援専門員やホームヘルパーなど人材の確保、育成」などであり、未利用者のほうが多い項目は「介護が必要にならないような健康づくりと介護予防の推進」となっている。

5 - 12 成年後見制度について

成年後見制度を知っている割合は、高齢者一般で3割弱と最も多く、次いで利用者が2割強、未利用者が1割台半ばとなっている。相談する場所を知っている割合は、高齢者一般で1割強とやや多くなっている。制度を利用している割合は、いずれの調査もわずかである。

5 - 13 介護者の状況について

主な介護者で「夫または妻」は未利用者のほうが多い。利用者では「息子」「ヘルパーなどサービス事業者の職員」が未利用者より多くなっている。

主な介護者の性別構成は、調査間で大きな違いはみられない。

主な介護者の年齢で49歳以下は利用者のほうが多く、75歳以上は未利用者のほうが多くなっている。

主な介護者の仕事の有無をみると、「介護のために仕事を辞め、現在仕事をしていない」は利用者のほうが多くなっている。

主な介護者の健康状態は、「おおむね健康」「病気や疾病あり」とともに利用者のほうが多くなっている。

介護協力者の有無をみると、利用者のほうが「いる」が多くなっている。

介護している時間帯は、いずれの時間帯も利用者のほうが多くなっている。

介護の負担感をみると、「非常に負担」と「多少負担」を合わせた『負担』と感じている割合は、利用者で8割弱と多く、未利用者では6割強となっている。

本人につらくあつた経験は、利用者のほうが「よくある」が多くなっている。

介護者の不安や悩みの相談先をみると、「担当の介護支援専門員（ケアマネジャー）」（利用者48.4%、未利用者12.8%）、「自宅に来るヘルパーなどサービス事業者の職員」（利用者25.9%、未利用者4.1%）などで大きな違いがみられる。

介護を行う上での悩みをみると、「ストレスがたまっている」「自分の健康が保てない」

「自分の他に介護をしてくれる人がほしい」など多くの項目で利用者のほうが多くなっている。「介護保険サービスを利用させたいが、本人が使いたがらない」は未利用者が3割弱で利用者の2倍近い。